

高速横浜環状北西線の整備効果

効果1 横浜港等の国際競争力向上と保土ヶ谷バイパス等の交通渋滞の改善

- 事業中の高速横浜環状北西線と一体となって横浜港と東名高速道路を直結し、背後圏との結びつきを強化することにより、国際競争力が向上します。
- 保土ヶ谷バイパスに集中する交通を分散し、保土ヶ谷バイパスの渋滞を緩和します。これにより、横浜市北西部と横浜湾岸エリアの定時性・速達性が向上します。（図1）



※計画・事業中路線名と関連IC・JCT・出入口等名称はすべて仮称
図1 横浜港と東名高速道路の所要時間比較

効果2 道路ネットワークの信頼性向上

- 事故や災害時で通行止めが生じた際に、支援物資や人員を迅速に輸送する経路の確保が必要です。高速横浜環状北西線が整備されることにより輸送路の軸となるダブルネットワークの確保につながります。（図2）

効果3 北西線沿線地域の交通環境の改善

- 横浜市北西部と横浜都心・湾岸エリアの連絡を強化し、交通の利便性を向上することにより、東名高速道路と第三京浜道路の間の一般道路を移動する大型車の通過交通が少なくなるので、高速横浜環状北西線沿線地域の交通環境を改善します。



※計画・事業中路線名と関連IC・JCT・出入口等名称はすべて仮称

図2 周辺高速道路寸断時における迂回路

※ 図1, 図2は、横浜市道路局ホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/jigyochosei/hokusei/>
を参考に首都高速道路株式会社で作成